令和6年度第3回鎌倉市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和7年(2025年)1月22日(水)午後1時10分から午後2時14分まで
- 2 開催場所 鎌倉水道営業所2階 会議室
- 3 出席者 松尾市長、高橋教育長、下平教育委員、朝比奈教育委員、長尾教育委員、林教育委員
- 4 関係者 共生共創部長、教育文化財部長、教育文化財部次長
- 5 事務局 共生共創部企画課長、企画課担当係長、企画課主事、
教育文化財部次長(兼教育総務課長)、教育総務課課長補佐
- 6 傍聴者 9名

【市長】本日は御多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、令和6年度第3回鎌倉市総合教育会議を始めます。

本日は教育大綱の策定に向けた取組状況について議論していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

そして、傍聴にお越しいただきました皆様、ありがとうございます。会議の傍聴につきましては、鎌倉市教育委員会傍聴規則を準用いたします。皆様の御協力をお願いします。

それでは、まず事務局からお願いします。

【事務局(企画課長)】共生共創部企画課長の安富です。本日の配付資料ですが、次第にあります2種類の資料となっています。資料1教育大綱の検討状況について、資料2教育大綱(案)の2種類となります。

御確認をお願いいたします。

続きまして、会議の運営に当たってのお願いです。御発言に当たりましては、マイクの使用に御協力いただきますようお願いいたします。

事務局からは以上です。

【市長】それでは、次第に沿って進めたいと思います。

「教育大綱の策定に向けた取組状況について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局(教育文化財部次長)】教育文化財部次長兼教育総務課担当課長の小原でございます。私から教育大綱の検討状況について御説明します。まず、前回12月に議論させていただいた、教育大綱の修正のポイントについて御説明させていただいた後に、3つ目の案として、策定後の評価の取組についてディスカッションさせていただき、最後に今後のスケジュールについて御説明させていただきます。

一つ目は、教育大綱案の修正について御説明させていただきます。前回、概要版について、教育大綱の目指すビジョンやコンセプト、そして、それぞれの政策の柱について議論させていただいて、大きな構造は概ね御了解いただいたと思っています。それぞれの柱立ての文言や、炭火や学習者中心の学びという、それぞれの言葉に込める言葉の書き方をこだわっていくということで、ディスカッションさせていただきたいと思います。この後、修正内容について御説明させていただいた後に、ディスカッションポイント①として、修正内容について御質問と御意見をいただくという流れで進めさせていただければと思っています。

では、別紙の教育大綱案を御覧ください。凡例ということでチェックをつけているスライドは、修正スライドになっています。修正内容について簡単なメモを残しておりますので、まずはそこを御説明させていただければと思います。今回、傍聴に初めて来られた方もいらっしゃるかと思いますので、内容についてウォークスルーしながら、修正ポイントについて御説明します。

この教育大綱については、大きく目指す姿ビジョンとして、北極星というところを目指していくために、我々はどのように考えて、行動していくのかという行動指針コンセプトを二つ位置付けています。

まず、目指す姿、ビジョンは、教育委員会、鎌倉市としてどのような教育の方向性を目指していくのかというところでございます。そちらは、炭火というキーワードで、6月の総合教育会議の時からさせていただいていますが、「“炭火”のごとく誰もが学びの火を灯し続け、生涯にわたり心豊かに生きられるまち鎌倉」ということで、炭火という鎌倉らしいキーワードを使いながら、どういう取組をしていくのかという将来像として、鎌倉の将来像を描かせていただきました。前回からの修正点は、ここに炭火のように学んでいる姿を何かイラストや写真を入れて、もう少しイメージを湧かせられるようなものがないかということで、鎌倉市の広報のデザイナーに御協力いただきまして、このようなペンギンの絵としました。ペンギンですが、補足して御説明させていただくと、鎌倉の事業でスクールコラボファンドという探究的な学びを様々な地域内外の方々と協力しながら取り組んでいる事業のマスコットキャラクターとしていまして、まさにファーストペンギンとして新しいことに挑戦していく、そういう総称としてペンギンを使いながら、そのペンギンが老若男女集まって、それぞれの燃え方で、自らの学びを広くしてそういう姿を表させていただいているところです。当初、炭火自体の本物の写真を使うということもありましたが、実際に炭火そのものを出すより、まさに炭火のように学びの火を灯している姿を描いた方が、学校の先生や、地域の方にもイメージは伝わりやすいと思いました。さらに、我々はどういうことをイメージしているのかというのが伝わりやすいのかなということでこのようなイラストとしました。

炭火という言葉が、それだけではなかなか意味が伝わりづらいということで、炭はなかなか火が付かない、火を付けるには巧みな環境設定が必要だけれども、一度、火が灯ると三つの特性を持っているということを御説明しています。一つが、持続性、炭火というのは一度燃えたとなくなかすぐには消えない、例えば少し灰をかけて休ませたとしても、500℃ぐらいまでは下がるけれども、灰を取ってもう一度息を吹きかけると火が燃え上がり、まさに花火のように、一気に燃え上がって終わるような学習ではなく、じわじわと学び続けるそういう姿を思い描きながら持続性という特性があるというものを示しております。

左下が多様性ですが、先ほどのペンギンの絵である通りで、この学びの火の大きさや、形や色でというのは、その炭の特性や材質によって様々です。子ども、大人、高齢者も含めて、それぞれの学びがそれぞれの燃え方で燃え続けるというようなところから、多様性という言葉は炭火の特性を写しています。

そして最後に、伝播性については、ある校長先生からいただいた御意見で確かにと感じました。伝播性は二つあるよねという御指摘をいただきました。一つは我々が最初にイメージした周りのお友達や人々にどんどん伝播していく1人が炭火として燃えるとそれがどんどん広がっていくというものです。もう一つは、一つのことに学ば

始め、それをどんどん深めていくと、隣接する分野にどんどん学びが広がっていく、その人自身の中でもどんどん学びというのは伝播していくところもあるよねという、御指摘をいただき、確かにそうだなと思いました。まさに、周囲の炭にじわじわ熱を広げるというのは、人という観点でも学びのジャンルを広げていくという観点でも、どんどん広がっていく、そういう伝播性という言葉で、そういう意味で御説明させていただいて、そうした持続性、多様性、伝播性の特性があるということになります。このような学びに火を灯し続けられる、将来にわたって心豊かに生きられるまち鎌倉を目指していくことが、この教育大綱で示した鎌倉市としてのメッセージでございます。

こちらがまさに将来像としてある中で、そこに向けてどうやって行動していくのかというのは、行動指針、コンセプトでございます。こちらも教育大綱というものの性質上かなり具体的な施策まで落ちるといよりは大きな方向性として、こういう考え方で政策を進めていこうというところを取りまとめました。

コンセプトは、炭火のような学習者に向かっていくというところは、学習者中心の学びというのが重要であるということを教育大綱では位置付けさせていただいております。まさにこの炭火というのは、じわじわ燃え続けるものであって、ガーッと周りから火を与えられて燃やすというよりは、じわじわ炭の中で燃え続けるような燃え方が重要であるということから、それはもう子どもや大人、学習者も当然そうであり、周りから外圧的に学ばされるものではなくて、その人自身の内発的な動機付けによって学んでいくという、学習者を中心として捉えた学びが重要であると考えています。こうした学習者中心の学びというのは、三つの視点があると考えてございます。一つが個の多様性の視点とありますけれども、こちら元々、個別最適という言葉を使っていたんですが、個別最適という言葉自体、元々は例えばデジタルの分野やそれぞれに対応した支援をしていくという文脈で使っていますが、ハイコンテキストというなかなか一般の方にも伝わりづらいということから個の多様性という言葉を採用しました。こちらはまさに個というものはそれぞれ多様であって、先ほども炭火の特徴で多様性がありましたけれども、それぞれが学びたいことや、あるいは学びたい学び方があるということをちゃんと捉えた学びというのを提供できているかということが重要な視点であるということです。

次に、自己決定は、学習者が主体的に自ら学ぶデザインできているか、周りから何か押し付けられるような形ではなくて、自らどういうことを学んでどういうやり方で学習者自身がデザインできているような形になっているかというのが二つ目の視点でございます。

そして三つ目の視点が、未来への先行投資の視点ということで、炭火のごとく学びの火を灯し続けられるような環境整備ということをしっかり行われているのか、この三つの視点を持って学習者中心の学びを実現していくのであるということをご宣言しています。

では、そのような学習者中心の学びというのを、もう少し具体的にどう進めていくのかということが、8ページに記載している4つの柱です。こちらは、今、実施している政策や今後実施していきたい政策を、この4つの柱で束ねて、この4本柱のもとに学習者中心の学びを進めていくという構成として位置付けています。

次のページ以降で、柱について御説明しております。まず一つ目は、ワクワクする未来を創る学びを生み出すということで、前回の議論の中で出てなかったのですが、現場の方々と対話する中で御指摘をいただき、ここに多様な学びというのを位置付けました。例えばフリースペースや学びの多様化学校については、こちらのワクワクする未来を創る学びを生み出すと位置付けましたが、この後出てくる三つ目の多様性を尊重した学び共生社会を創造するという柱の方が、親和性が高いのではないかと御指摘いただきましたので、こちらに移動しています。その代わりに、元々こちら三つだった柱が二つになり、あえて一つにしているのがこのCの“学習者中心の学び”への挑戦支援ということになります。そこも含めて御説明させていただきますと、この柱それぞれに、ワクワクする未来を作り出すという柱ですと、取組の方向性で実現したい学びのシーン、これを目指していくために、どういうプロジ

エクトが必要なかというところを記載しているというのが大きな構成です。このワクワクする未来を作る学びを生み出すという柱は、右側は新しい時代に対応した学びの実現ということで、スクールコラボファンドや体験的、探究的な学びについて進めていくというところを書いています。そして B は、デジタル技術による学びの転換のところ、こちらは学びの DX に書いていたところもありましたけれども、デジタル技術によって、ここ何年か DX という言葉をちょっと伝わりづらいという話もありましたので、説明では使いましたが、タイトルとしてはデジタル技術が学びの転換として 1 人 1 台端末やクラウド AI をしっかり活用していくという記載をさせていただいております。そして、C が新たに追加したものでございます。学習者中心の学びへの挑戦支援ということで、こちらは、学習者中心の学びというのをただ立てて、あとは現場でやってくださいというだけではなくて、それをしっかり支援していく、伴走していくということが必要であるということから、現在も行っていますが、学校に対して、学習者中心の学びのスペシャリストや専門家をしっかり伴走して、そのための教職員研修、そういうところもしっかり充実させていくということの方針の中で位置付けさせております。

二つ目、行動指針の柱がある地域の宝物を活かし、生涯にかけて学ぶ機会というのを二つ目の柱に掲げております。こちらについては、地域の中のたくさんある地域資源を生かして、しっかり学ぶ機会を作っていくということを目指していきたいというのをこの取組の方向性や、学びのシーンにおいて記載をさせていただいております。こうしたものを目指していくために、我々が重点的に取り組んでいくプロジェクトとしては三つあります。一つは A の地域と学校の連携で、例えばコミュニティスクールで地域と学校がしっかり連携している姿、B が生涯学習、体験学習の機会の充実というところで、幅広い世代が生涯学び続けるプログラムをしっかりと進めていくということや体験というところで子どもたちの学校だけの関係ではなくて、学校外の学びを進めていくということで、部活動や学外の体験活動について、推進していく旨を記載しました。そして、C が歴史文化の保存継承活動ということで、我々が抱えている地域の宝物をしっかりと保存して、継承して、活用していくと、博物館等を生かしながら進めていくという旨を記載させていただいております。三つ目の柱は、子どもたちの多様な学びの多様化推進、これが一つ目の柱に元々あったものでございます。多様性を尊重した学び、共生社会を共創するという柱になっており、まさにこの違いを多様性として認め合うことで、鎌倉に関わる多様な大人、子どもが尊重されながら、平和に生きることができる共生社会を象徴するという、方向性を目指していきたいところです。こちらについては、文案を修正しております。林委員から御指摘いただいた、人権や平和というのが鎌倉の教育史の中で、教育大綱を続けていくことが重要ではないかということで、御指摘いただいたものを取り入れました。そして、重点的に取り組むプロジェクトとして、子どもたちの学びの推進ということで、フリースペースや学びの多様な学校では、教育委員会としてもしっかり支援しながら、インクルーシブ教育の実現に向けて取り組んでいきたいという考えです。そして、C が子育て相談地域の環境整備ということで、こちらは、保護者が安心して子育てに取り組む相談体制や就学援助等の計画作成をしっかりと取り組んでいくというのを記載してございます。最後、四つ目の柱は、学習中心の学びを支える環境を整備するというところで、これまで具体的な支援や現場をどう盛り上げていくかという政策を記載しましたが、四つ目では、それらを支える環境をしっかりと作っていくと記載しています。まさに取組の方向性について話しましたが、炭に火を灯すというところも簡単には灯されない、バーベキューでもなかなか炭に火が通らなくて、大変だなという経験が私にもありますが、炭にしっかりと着実に火をつけていくには、しっかりとした環境設定が必要です。押し付けたりすると、気がつかないところで学びを通して専門性に基づく巧妙な環境設計が肝要であるということを目指しながら丁寧な学習環境整備を通じて、学習者中心の学びを実現していくという方向性を位置付けています。

取組プロジェクトは、学校の指導運営体制の充実というところで、質量ともに十分な指導体制を構築していくということから、例えば教員をしっかりと確保していくということについて、御指摘をしてございます。また B は、安心安

全て豊かな学校環境の整備というところで、昨年度、学校の整備計画について策定していますが、それを、しっかり着実に推進していくとともに、学習者中心の学びに対応した学習空間をしっかりと作っていくことを宣言してございます。そして最後のCは、ABについては学校によって違いますが、Cではまさに生涯学習についても、しっかり環境設定が必要であるということで、地域における生涯学習基盤整備として、生涯学習センターや図書館なども今まで生涯になって学びを進めていくというところを記載させていただいてございます。このような形で各政策の柱については、政策の柱とともに、どういう方向性を持たせていくのか、そしてそれによってどんな学びの支援の結果、そこを目指していくときにはどういうことに取り組んでいくことがいいのかというところを重点プロジェクトとして記載をしています。前回の総合教育会議で御説明しましたが、この重点プロジェクトを御覧いただく通り、まだまだ抽象的で、今後5年で、教育大綱として本当に具体的にどういことを進めていくのかというところが、当然日々の政策の中で進めていくものではありませんけれども、しっかりとそれを計画に位置付けていくということで、来年度、教育振興基本計画という新たな計画を、立ち上げるということを想定しているの、そちらにてさらに具体化を推進していければと考えています。14 ページ以降は付則でございますので省略させていただきます。

以上、教育大綱として全体のワークスルーと修正ポイントの御説明です。これについて、改めて御覧いただいた際の指摘事項や修正内容についての御質問、御意見等あれば皆様お願いいたします。

【市長】前回会議からの修正事項の説明でございましたけれども、何かさらに修正や御意見ございましたら、よろしくお願いいたします。

【長尾委員】新たに修正されたポイントの中で一つ質問ですけれども、10 ページ目のところで、重点プロジェクトCのところですが、学習者中心の学びへの挑戦支援、非常に素敵な言葉だと思いましたが、学校教育に限っているところについては、あえてそのような書き方をされてらっしゃるのか、生涯学習の学習中心の学びへの挑戦支援ってことでもう少し幅広く捉えてもいいのかなと思いました。

【事務局(教育文化財部次長)】ありがとうございます。まさに悩んでいたところを御指摘いただきまして、大変ありがとうございます。事務局側の考えとしましては、生涯学習の観点の中に含むかなと思いましたが、生涯学習としての機会をしっかりと作っていく、そうしたところを②番でBの重点プロジェクトで記載していたところもございまして、重複感が出るかなというところがありました。また①の柱自体がワクワクする未来を作っていきますということで、かなり子ども向けに見える柱にもなっていましたので、あえて1番の柱については子どもや学校向けというところで整理をしました。

【長尾委員】承知しました。

【教育長】説明の中であったキーワードとして炭火や、学習者中心の学びというのは、スローガンや掛け声ということではないと思っています。まず、コンセプトとビジョンという説明がありましたけど、ビジョンというのが目指す姿ということで、学び・教育というのを通じて鎌倉がこうあったらいいなという姿を炭火というキーワードで、語っているというような状況です。これは市全体のミッション、ビジョン、バリューとも整合している共生社会の共創や、世界に誇れる持続可能なまち鎌倉というところを目指すための学びや教育の施策としてどうあるべきか、本当にきらびやかな北極星のような存在だと思っています。道のりは遠いかもしれないけれども、こういったところを我々目指してい

くというのが、ビジョンでございます。そして、コンセプトというところでこの炭火というのは、かなりこの場でも議論してきたことだと思うので、もし委員の先生方からもコメントいただければと思いますが、学習者中心の学びというコンセプトで、コンセプトというのは、コンパスや羅針盤のようなもので、これから学校や、生涯学習の様々な現場、現場でいろいろ迷うところがあると思います。迷ったときにどう判断すればいいのだろうと、A の道を行ったらいいのだろうか B の道を行ったらいいのだろうか迷ったときに、やっぱり学習者中心の学びというところに帰ってきて、判断をしていくというのが我々の行動指針ということだと思っています。この学習者中心の学びとは何かというのを考える上での、これから解像度を上げるというか、より学習者中心の学びとは何なのかというのは、地域とも学校とも様々な方々ともこれから対話しながら、さらにこの解像度を上げていきたいと思っています。現段階ではこの①②③というような観点を出していたりします。やはり多様性ということで、子どもたち一人ひとり多様になっています。一人ひとりの多様性、個性というのを活かしたような学びにしていきたいというようなことと、それから自己決定ということで、自ら掴んでいく、自分ごと主体性ということで、そこが与えられる学びではなくて、自分で掴んでいくのだというところを重視したいなということと、そして、これは市全体の総合計画とも絡んでくるところでありますけれども、しっかり教育・子どもというところを鎌倉市としても非常に大きなものとして推進していくというところをしっかりと打ち出したいというような、視点で学習者中心の学びと言っています。これは、こどもみらい部のこどもまんなかというところとも軌を一にするものだと思っています。このような言葉で、今のところ我々は語ってはいますが、委員の先生方から見て学習者中心の学びとは何なのかというところで、補足やキーワードとか、これまで議論してきた炭火に加えて、少し出させていただいたりすると、また磨かれていかなと思っています。後半の議論にも関わってきますけれども、これをスローガンで終わらせずに、どう施策に溶け込ませていくのか、あるいはどう現場で、これが本当のものになるようにやっていくかというのが勝負だなと思っています。その過程の中でやっぱりこういう子どもたちの姿がまさに、学習者中心の学びだよ、なんていうような対話は、たくさんやっていきたいなと思っています。全体の課題として、教育委員の先生方からも少しお話いただけたらとありがたいです。

【下平委員】毎年、お正月に初釜で炭を起こします。この教育大綱で炭火が話題になっているので、今回、炭を起こすときも、広がっていく状態もかなり興味深く、観察していました。そこで一つ感じたことですが、やはり炭に火がつくには、大変な火力と時間、手間がかかります。コンロでは安全装置が今は敏感すぎて火花がパチパチ散ったりすると止まります。社会でも安全を重視するがあまり安全装置の作動で積極性が奪われ、大人も子どもも、実は炭がおこる前に、消えちゃっている、消し合っちゃっているところがあるのではないかと感じました。

それぞれが個性といいものを持っていても、それを消し合ってしまう社会では寂しいなと思いました。ですから、安全はもちろん大事、無難も大事ですが、炭火に火がついて燃え広がっていくためには、積極性や、先ほどのワクワクや、好奇心を消さないことが必要です。そう考えると、この4番の環境を整備するという部分が物理的な環境だけになっていますが、いやそれだけじゃないと思うのです。もっと社会全体が、保護者も先生もみんなそれぞれの炭に火が灯るような、それぞれがワクワク学び続けられるような、心的な環境整備も重要ではないでしょうか。最初のうたい文句の中に「巧妙」と書いてありますが、そうじゃなくて実は、私達一人ひとり、大人も含めて、社会全体の認識、意識が変わってこないとなかなか火がつかないということが起こるような気がします。

これを環境整備の中に入れるとなると、ニュアンスが難しいですけど、ぜひ皆の自分事だよ、大人達も自らがワクワク感を持たないと、広がっていかないというところをぜひ伝えていきたいなと思います。

【朝比奈委員】炭火のエピソード、もう一つはですね、先日 SNS で発信してらした鎌倉にお住まいの寒川一さんと

いう方が焚火のところで、あの方の焚火というのは、メラメラ燃やすのではなくて、最終的に炭にした状態で、焚火を楽しむようなところがあって、そこでいわゆる焼きマシュマロをするときに、アメリカや海外の子どもたちは炎が立ち上がっているとこで炎にあぶって、燃えてしまうようなことをやりがちだったけど、日本の子どもたちは、自然にその遠赤外線のことをわかっているのか遠火でじっくりとやって、周りは若干焦げるけれども、燃やしちゃってない、それもなんかあえて言わなくても潜在でわかっているところが観察されて、すごく嬉しかったってということおっしゃったけども、やっぱり炭火の例えというのは、そういう今現在の方々が、果たして炭火をどういうふう認識するかなんですけども、大概是バーベキューのときの炭火でそこに着火剤を入れてボンってのをイメージするかもしれないけども、もしかしたら潜在的にじっくりとした炭の火を眺めて、心を落ち着かせたり、何かそういう教わらなくても、わかっているってとこがあって、そういう意味で、これを例えに持ってくると、いろいろ環境整備の問題もそうですが、何かとにかくその心を一つに収めて落ち着かせるっていうところに繋がっているのではないかなという感想でございます。

【林委員】7ページの個別最適というところの文言を個の多様性という言葉に変えていただいたことで、学校教育というところにフォーカスしないで、子どもから大人までに広がったので、私はとてもよかったですと思います。また文章で表すのではなく、個の多様性、自己決定というように、一つのまとまりとして視覚的に見せてくれたのが非常にわかりやすいと思いました。先ほど教育長から学習者中心というところでお話がありましたが、この真ん中にある大人も子どももというこのイラストが非常にわかりやすいのかなと思っています。また後でお話があると思いますが、この学習者という言葉いろいろな立場の人に置き換えて、この1番2番3番を変えて考えていくと、今回の大綱の価値になるかなと思っています。どうしても文科省が子どもを主語に子ども中心と言っているので、学習者中心という子どもたちと思いがちですが、先日、学校の研修で先生方にこれからの学習者中心というのは、子どもを主語というけれど先生たちも主語、子どもたちにいろいろと伝えていくのは先生たちなので、先生たちが子どもを主語にするために何をどういうふうにしたから何をするのかということを考えないと駄目だよと話をしました。そういう部分では、学習者のところを子ども中心の学びと考えた時、教師中心の学びの内容は多分変わってくると思います。そしてそれが広がっていく、学年に合わせた学びだったら、その環境の部分も全く変わってくるわけなので、そういう意識を発信する方も受け取る方も持っていけるといいなと思っています。

【長尾委員】私も同じような意見になってしまいますが、先ほど下平委員が安全装置の話があったかと思うんですが、やはりいろいろな意味で環境が安全装置として働くケースがあるかなと思うときに、それをどうすればいいんだろうってときは、やはり地域と家庭と学校現場だけではない、その捉え方が非常に大事なんじゃないかなと思っていて、鎌倉市だからこそこできる地域の皆さんと家庭の皆さんと学校現場の皆さんと、あの林委員がおっしゃった通り、それが自分事になったり、自分がこの真ん中に来たりってことができる何かこのデザインが飾られるというのがとても未来としては素敵だなというふうにご大綱を作っていくって今の感想です。なので、言葉ではなかなか表現できないところなのかもしれませんが、私達がそんなことを鑑み理解しながら私達の口で伝えていくってことができればいいかなと思います。

とても考えられたペンギンの絵、ここまでの過程でいろんな炭火の絵を見て炭火を見ながら想像してそのチャッカマンじゃないとか、さっきのマシュマロの話とかってという炭火の想定の中でこの言葉が出てきて、この言葉に落ちてきているところがあるときに、初めて市民の方々にこれを見せたときに、炭火が伝わるかどうかがちよっとわからない。これはもう決定ですか。

【事務局(教育文化財部次長)】これまだ決定ではなくて、これから変更可能ですし、そういう意味では、この後もお話が出てくるかなと思いますが、引き続き議会での議論を踏まえて決定します。

【林委員】デザイナーさんをお願いして考えていただいたのですよね、そのときに炭火をテーマにしてという話をし
て出したのだと思います。そのときのデザイナーの方のお話を聞かせてください。

【市長】広報の専属デザイナーに依頼しているので、依頼とか委託して作ったわけじゃないよね。

【事務局(教育文化財部次長)】広報のデザイナーの方には教育大綱の趣旨みたいなのは、改めて説明する
時間を持たせていただいた上で、その方の中に湧き上がってくるものを書いていただいたところござい
まして、それこそその方には炭火のイラストを書くっていうのもあるのかなとも相談しましたが、炭火と聞いたときに
イメージするものもまた変わって、それだとなかなか一つのものにはまとまらないみたいなことをディスカッションし
たときに、このペンギンがしっかり学んでいるというのがこれまでの鎌倉の施策ともリンクしてより伝わりやすいので
はないかなというのをディスカッションとしてはさせていただいた上で、こういう形としています。

【下平委員】ペンギンは考えてくださった結果なのだと思うし、今までスクール編にも出ているのですが、炭火と
ペンギンの親和性がわかりにくいですね。教育委員として関わっていてこのイラストも見ているからわかるけれど、
イラストは、強烈なインパクトになるので難しいかもしれない。

【林委員】最初にそれが出てくるというよりも、語った後の最後のところに、この大綱の中で語った最後のところにこ
のペンギンさんたちが出てくると、何となく繋がるのかなと思います。だからあえて一番最初のところに炭火のイラ
ストがなくても読み進めながら炭火を想像して行って、そういうことなんだなと理解して、いろいろな学習者中心の
ペンギンさんが、みんな並んでいてそこで繋がっているよというところで最後にもってくるのもいいのかなと思った
次第です。

【下平委員】8ページの③のところの多様性を尊重した学びで共生社会を共創するところにイラストを入れてくださ
いましたよね。これは、なんですか。

【事務局(教育文化財部次長)】地球になります。

【下平委員】イメージとしては、むしろこれを表に出すのはどうでしょうか。一つの案ですけど。

【事務局(教育文化財部次長)】可能な限り対応させていただきます。

【教育長】ちょっと違う観点なのかもしれないけど、林委員がさっきおっしゃっていたこと本当その通りだなと思って
聞いていましたが、学習者って言い方は、当然子どもだけではなくてということですので、これをやっぱり先生方も
元気にするような教育大綱にしたいっていうふうに思っています。学ぶことで幸せ感じられる、あるいは学びの仕

事に携わるってということが幸せに感じられるっていうふうになっていかないと、今、先生不足なので、やはりそこは働きがいやそういったものが見えてこない、その後が続く人たちがいなくなるので、先生たちはプログラムなわけではなくて、教育の世界だとプログラムとして答えられることがあるのですが、プログラムソルバーですよ、問題を解決していく人こそが先生だったので、そういう人たちとともに学んで、課題を一つ一つ解決していくと、そういうふうな教育大綱にしたいなと思っていて、それで各学校も回りながら、先生たちともこの目指す姿ってというのは語り合ってきました。やはり炭火と学習者中心ってもう本当に超ハイコンテキストなので、褒められている意味合いがいっぱい入っているので、先生方おっしゃったようなちょっとうまくしていたり、我々が目指す姿でどんな感じだろうというのも、一見してある程度伝わるようなものとか、ちょっとやれる限りで、あのペンギンもいいチャレンジだったと思うので、やっていきたいなとは思っているのと、一方で、この紙だけでは全部は伝えきれないので後半の議論になりますけども、当然、学校だけじゃなくて生涯学習も文化も入った教育大綱、子ども政策も入った教育大綱なのでかなり抽象度が一番高い上位のものです。これをいかに施策個別の計画や、そういったところに込めつつラインというかそういう一貫性ですね、一貫性をしっかり取っていくかっていうのはすごく大事な話になりますので、また今度、次のパートで、その辺も持っていきたいと思いました。

【市長】一点だけ、下平委員のお話のところにもちょっと関連するのですが、学習者中心の学びをさせる環境の整備ということで、どちらかというとハードの面が強く出ているところから、先ほどの委員のお話のように、少し火を消しに行くような、内面の話にも関わるかなと思います。その辺のところは、少し触れてみたらいいのかなって感じはしました。昨日もちょっと教育長含めて部長級でいろいろと職員の能力意欲、どういふふうに高めていくかっていう議論もありましたが、若い職員と話をするとやっぱり課長があれやっちゃ駄目、これやっちゃ駄目とか、結局失敗しないということで、せっかくやる気を持って入ってきた職員がその意欲が失われてしまうみたいなことなんかもある。これはどこにでも言える話だと思いますけど、やっぱりそういうところを危惧されてのことだとすると、もう少しそのチャレンジしていく失敗してもいいけれども、それをやっぱりみんなが周りで支えていくというそういうところを表現していくっていうのも、その環境の整備というところでは、必要かなと感じました。

【事務局(教育文化財部次長)】4番の環境整備のところは、右側に書いている重点プロジェクトはあくまで教育委員会や行政が実施する学校政策的なところで、まさに大きな取組の方向性としては、左側に関わらないように校内環境設計であって、学習関係を整理するところで、これはまさにハードに限らず、当然ソフトも含めというかそういう空気感をしっかり調整していくということ自体が、この柱の大きな考え方なのかなと考えています。

【市長】学習者中心っていうところにもね、繋がっていくところだと思います。

【下平委員】④のところの具体例の中にでも少しそういうニュアンスが入ると、イメージがハード面だけに偏らなくなるのかなと思いますし、別の項目のところでもそのような内容を入れるか工夫欲しい気がします。

【教育長】安全安心というのは環境だけではないですけど、心理的安全性というのはやっぱり大事ですね、この課でいろいろチャレンジをしていいよっていう課長のもとでやれるのか、あるいはこのクラスで失敗してもいいよという雰囲気の中で学べるかっていうのは、大事な心理的安全性っていうのもちょっと見えるようにしたいなと思います。あと指導主事と、この学習者中心について議論したときはですね、ここにちょっとまだ出きれてない視点としてやっ

ばグリッドっていうか、粘り強さっていうのですかね、学びに向かう力みたいなのをやっぱり先生方の思いとしては込めたいなという話が出てきたかなと先ほどの下平先生の炭火の安全装置じゃないですが、これがすごく難しいところで、心理的安全性は確保しなきゃいけない、ある程度自由さも確保しないといけないっていうところと、ちょっと課題にぶつかったり、何かが生まれたときにそこで諦めちゃうのではなくて、ぐっと一歩踏み込んでチャレンジしてみると、こういう子どもたちもまた育てていきたいという思いがあります。それが、グリッドっていうふうに言い方をしている、ジャックっていう教育社会学の本当に一流の研究者で、グリッドのある子たちが将来、例えば犯罪を犯さないや、あるいはすごく所得が高い、あるいは学び続けるっていうところにすごくその子ども時代の粘り強さっていうのが効いているという経験があります。そういったこともまた育てていきたいっていう思いがちょっとどこに込められるかなって思います。安全装置をばっとスタートさせてですね、ここから先は何か問題が起きるかもしれないからやめてっていうとその粘り強さに、少し反作用がある部分があって、やっぱり行政であったり教育っていうのはやっぱり問題が起きないよっていうところがちょっと考えてしまうところではありますが、やっぱりある意味ではクラスは社会に出る前の練習場所なので、ちょっと好んでみたりとか、ちょっと失敗してみたりっていうのが、やっていいんだってそういうのをチェックしてみたっていう心理的安全性がある環境の中で、ま学ぶことってやっぱりいいことだなんて思えるような子どもたちを育てていくっていうのが、我々の仕事だと思っているので、ここにちょっとどういうふうに込められるかという部分もちょっとチャレンジしてみたいなというふうに思いました。学習者中心は当然子どものですね、あるいは学習者の言いなりになるとか、やりたいことをやらせるっていうことでは必ずしもないです。そこは、当然ある程度の一斉指導が必要な場合もあれば、議論が必要な場合もあります。そこを組み合わせている、ただ視点はやっぱり学習者の側に立ってというところだと思っているので、先生方の一斉指導であったりとかし、必要な指導するのを躊躇しないっていうことは大事だというふうに思っていますのでその辺も含めて誤解なく伝わるように、やっていきたいと思えます。

【事務局(教育文化財部次長)】今議論いただいている心理的であったり、あるいはハード面であったり安全性だったので、環境として中心を担っていくみたいなのところについては、柱4 自体、具体的な政策の話も落ちてしまっているんで、むしろコンセプトに近いところで続けた方がいいと思います。言葉はまだ決めてないですけども、こちらの未来を先行投資としていたところは何か、むしろこの解像度をもう少し高める形で、今心理的物環境設計で書いていますが、具体的にそういう雰囲気を作っていくことや、子どもたちが挑戦できるような環境設計をしていくっていうことが重要であるということ、ここに位置付けるのが良いかなというのが、伺いながら感じておりますので、具体的な文言はちょっと個別に御相談できればと思いますけれどもそのような形で、原局でも深めさせていただければと思います。ちょっとここをもう少し具体的な文言をここでセットしていくようなディスカッションできればと思いますが、ちょっと時間の関係もありますので、大きな方向性、それで捉えさせていただくというところで次の議題に進めさせていただければというふうに考えております。

では、教育大綱策定後の取組ということで用意したスライドはこの1枚でございますので簡単に説明しますと、ディスカッションポイントの二つ目としまして、今御議論いただいたところはかなり深まってきているところなのかなと思っております。このような炭火や、学習者中心の学びっていうこの理念を鎌倉市としても、ただのスローガンで終わらせずに、しっかりと具体化実現化していくためにはどういうことに取り組んでいくべきかというところについても、ぜひ御意見を頂戴したいなというふうに考えています。

大きな考える視点として、三つほど記載をさせていただいて、一つ目が学校現場や保護者あるいは地域にどう浸透させていくのか、そして、二つ目が具体化するために今後決めていく教育振興基本計画そのものの方向性、

そして三つ目が教育大綱の趣旨付けに向けて実施すべき事業施策というこのような観点があるかなと思ってございます。お時間の関係上皆様一言ずつ御発言いただくような方かなとは思いますが、もしよろしければ、教育大綱の理念を実現していくということに向けてですね、ぜひ委員の皆様からも御意見を頂戴できればというふうに考えてございます。よろしくお願いたします。

【下平委員】先ほどから出ていますが、私達一人ひとりが自分事として捉えられるということが大事だと思います。教育長も市長もいろんなところで広報してくださるとは思いますが、鎌倉の広報に載せるのももちろんですけど、LINE にも入ってきますよね、鎌倉市の情報が。そういうところでもコンセプトや内容がしっかり伝わるようにしていただけたらいいですね。あとは、決まりましたという広報や通達だけじゃなくて、みんなが自分事として捉えるために、「この教育を実践していくためにどんなことができそうか」という話し合いの場を、市長部局や地域や保護者の集まりで持つとか、「こんなことができるのではないか」「こんなふうになったらいいね」ということが言える場があるといいと思います。

せっかく朝比奈さんが鎌倉エフエムやってらっしゃるので、そういう番組を持って、色んな人たちと意見交換することができたら、パーソナリティやりますから。一つのアイデアです。

【林委員】先日教育教員の教育研究協議会があって、各地域の教育委員さんと協議をした時、自分もお話をしましたが、CS の話になったときに、これからは学校と地域と一緒にやっていくので、こういう話題を CS や地域の人と一緒に学校と話し合うとか、そういう場を持っていくのも一つかなと思います。学習者のところを置き換えてというのであれば、説明に回るときにこのパワポの中の名前をポンと入れ替えて、皆さんだったらどうですかというようなワークショップをやって、話し合うことで自分事にできたらと思います。おそらくどの立場の方たちも今やっていることがこの大綱にはいっぱい詰まっていると思います。全部新しいことではないはずなので、それを引き出して、今のことを続けられればいいですよというようなプラスのお話し合いができるような場を作っていく。これやるからこれやってくださいではなくて。特に保護者は子育ての中で、親という学習者が、この三つのところを考えていくと私は、これやっていてよかったとか、これやってないからちょっと子育て難しいけどやっていこうかなっていうふうになるかなと思うので、ぜひそれぞれの立場に立った伝え方をしていただければいいかなと思います。

【長尾委員】大綱ができる時は、市長部局も教育委員会も非常に市民の皆様とか学校の先生方が伝えていこうというところは多分すごく工数もやっただろうと想定ができますが、実はその後の方がその工数といいますか、意識を伝えていく浸透させるって意味では大事なんじゃないかなと思っていますので、その後について、先ほどの FM でもそうですし LINE でもそうですし、もしかしたら今のご時世、動画のようなもので、事例のものをどんどん出していくと、そのツールをうまく使いながらぜひその大綱後のところも私達が炭火のごとくですね、火を灯し続けられるように活動していくことが大事かなと思っております。学校現場の方で言いますと、やはり皆さんおっしゃっている通り、学校と保護者を分離させて考えるっていうことをもうここは何か、そうではなく、今回のこの件も、先生方がどんな質問をしているか、保護者がどんな質問しているかということも踏まえて、何か地域と学校と少しみんながいる場でこの大綱について皆でディスカッションをするとかですね、自分事に置き換えるみたいなマークができたらいいのではないかなと具体的に思いました。あともう一点が学習者と言われてですね、私は自分のことだと思えなかったです。なので、多分学習者と言われるときっと子どもたちだろうと大半の方は思ってしまうので、この定義、新しい言葉だというふうに捉えていいと思いますので、この学習者とはなんぞやっていこうところがある程度

もう少し身近に感じられるような解像度でお示しができたらいいな、ここはどういう具体策があるかは具体的にはないですけども、学習者とは、私もなのよと、自分事化だよってところをもう一歩追及できたらというふうに思いました。

【朝比奈委員】私が言うと手前味噌みたいで言えなかったことを、皆さんにおっしゃっていただいたのですが、要するにこういったことをせっかく素晴らしいことをやっても全然周知されなかったら何の意味もないことですので、鎌倉市の広報、私も FM である時間になると、ただその作文したものを読み上げるコーナーがありますけれど、それだけだと伝わってこない部分ってあると思います。やはり具体的に何かそういうもっと踏み込んだディスカッションの場を公開するっていうこともありますし、もちろんラジオだけだと画像がないと十分じゃないということであれば、そういう映像もね、どこか公開して FM は、明日からホームページ新しくなりますので、そういうところでも何かリンクして紹介することが可能だと思いますが、いずれにせよあらゆるメディアを使ってするようなことを考えていった方が良いので、ぜひそういうことも考えていきたいなというふうに感じております。

【教育長】本当に映像、ラジオも含め、全部やりたいと思います。これからももちろん学校だけじゃなくて地域を回らせていただいて、様々な団体さんにも今も既に説明を始めているところではありますけども、また、教育大綱についての説明を行っております。ただやっぱり皆さんおっしゃるように、いかに自分事になるか、まさに学習者中心の自己選択、主体性のところでそこはポイントだと思っているので、説明だけではなかなかそうもいかないじゃないぐらいあるだろうなというふうに思っています。なので、説明に変わる部分は映像なんかでもですね YouTube や、TikTok、様々なツールがあるので、そういうところも使ってやりますけども、やはり今日傍聴に来ていただいている方なんかのところにもぜひお求めあれば、我々教育委員会の方でぜひ伺ってお話をさせていただきますし、それだけではなくて、これ、いわゆる行政計画ともちょっと違う部分があると、私はそう理解しています。地域の皆さんや先生方等も一緒に目指していくものっていう、ただ行政が頑張りますということを説明していくという話ではないです。同じ目線をそれぞれの自助共助公助でこれを組み合わせしていくことだと思っています。なので、学習者中心ってなったときに、当然学校の中にいるときの姿は先生たちが見ているわけですけども、その子どもたちの姿を地域であったり、家庭であったりで見ている皆さんと同じ目線になっていきたいなと思います。当然、公助の施策はこの来年度でつくる教育振興基本計画の方にも込められますし、この中にも一部詰められていくと思います。まだ予算調整中なので、今日は施策まで踏み込めてお話できなかったですけども、そういったものは公助としてはありますが、それだけではやっぱり足りないと思っています。もう自助の部分で特に他ならぬ鎌倉なので、既に魅力的な学習者、大人の皆さんがいて、そして自然や文化があってというまちでありますので、そこで豊かな文化関係資本、社会関係資本を使いながら、もう既に一流の学びをしていらっしゃる大人も子どももいると、そこをそして我々教育委員会や学校という公助の部分というかですね、その間にある共助っていうのもまだこれからはずごくポイントになってくるものだと思っています。その共助的な施策が、またこの教育大綱の中にも込められていくというふうに理解しております。なので、自助共助公助という観点で、自分ができることってなんだろう、そして地域の皆、あるいは学校と一緒にやれるような共助の部分って何だろう、鎌倉市は教育委員会や、あるいは国にお願いしなきゃいけない部分ってなんだろう、その公助の視点とこの三つの視点でぜひいろんな方々と語りたいたいなと思っていますので、そういったワークショップや対話の場を通じて、学習者としてこういうことなのかとか、自分の声に出してみたり、あるいはいろんな人の声を聞くことを通じて、この学者たちの学び、炭火というのが、本当になっていくっていうプロセスだと思います。なので、そのプロセスを今回は、一つの材料にして、いろんな方々と学び

っていうのについて、対話をしていくことがすごく大事なことなのかなというふうに思いました。長尾委員からあったように、学習者っていうのが大人も含むということもですね、少し工夫したいと思いますし、学校だけ、そして地域だけに何って説明やワークショップをするのではなくて、みんなごちゃ混ぜの中でのワークショップというのがまた今回はすごくポイントになると思います。今、深沢中や深沢小なんかでは小中もごっちゃになりながら、あとは先生方も地域の方も親御さんも混ぜながら対話の場を持つとしたりしています。そういった場に、我々も出張して、教育大綱を説明させてくださいとか説明しますというよりかは、これを一つのネタにしながら学習者について語り合いませんかというふうなことをやっていければなという思います。

【事務局(教育文化財部次長)】今後のスケジュールだけ御説明させていただきます。今年度末に教育大綱策定いうところを目指してこれまで議論してまいりました。今後、議会等での議論も踏まえてですね、来年度には教育振興計画も策定していきますので、それについては引き続きというふうに考えてございます。

【市長】では今日も皆様からいろいろ御意見いただきましたので、本日の御意見を踏まえて、この大綱案を改めて修正を行いつつですね、柱や肝となる部分につきましては、本日の提案を教育委員会の方で考えて確認を年度末までに皆さんにもしていただきながら、この年度末を目途に移行大綱を策定していくというようなスケジュールで進めてまいりたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

<委員了承>

【市長】では、他によろしいでしょうか。

これをもちまして令和6年度第3回目の鎌倉市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。